

いじめられた体験は深く心の傷としていつまでも記憶の中に残るのです。



小学校では “やめよう相手の心を傷つける言葉”

2006年12月5日には町田市立山崎小学校6年生の学級で、言葉によるいじめ(暴力)をなくすことを教える授業が行われました。この授業のねらいは、子どもの中で日常的に使われている「死ぬ」「うざい」「消える」という乱暴な言葉が相手に精神的な苦痛を与え、それはいじめであるということ子どもたちに教えていくことでした。

授業の中では、小学生の時にいじめられたことが今も心の傷として記憶の中に残っているという地域の方が声を詰まらせながら自分の体験を語る場面がありました。それを直接聞いた子どもたちは、真剣なまなざしで話し手を見つめ、一人ひとりが自分の身に置き換えながら聞いているようでした。いじめをなくしていくことの必要性を真剣に考えることができた授業でした。

このメール受け取った相手の気持ちは？



中学校では “考えよう受け取った相手の気持ちを”

2007年1月23日、町田市立町田第一中学校の1年生の学級で、電子メールやブログによって相手の心を傷つける言葉について生徒に考えさせ、電子メールを利用するときのマナーやルールを教える授業を行いました。町田第一中学校の先生と小山田中学校の先生が協力して行った授業でした。

相手の顔が見えないコミュニケーションツールであるパソコンや携帯電話でのメールのやりとりで起こる誤解やトラブルについて、事例をもとに実際に受け取る側に立った時の気持ちを生徒に考えさせる内容でした。生徒たちはトラブルに発展させないようにするためにはメールを受け取る相手の気持ちを常に考えながらメールを送信することやメールによる誹謗中傷は犯罪行為であることを学びました。

町田市教育委員会では、社会のルールや常識などに基づく価値判断基準(規範)を守り、判断・行動しようとする意識を町田市立小・中学校の全児童・生徒に意図的、計画的に育てていくための「規範教育カリキュラム」を作成中です。これは、2008年度から全小・中学校で実施することになる「小中一貫町田っ子カリキュラム」の1つの内容となります。善悪の判断、生命の尊重、約束やきまり、礼儀、自分や他者の権利、差別や偏見といった内容について、重点化して指導していくこととするものです。

実際には、道徳や特別活動、総合的な学習の時間、生活指導などとは行いません。「いけないことではない」「やらなければならぬこと」はしっかりやるべき」ということを、義務教育の責任としてきちんと伝え、教えていく

というカリキュラムです。しかし、学校だけで教えても、それが家庭や地域で生かされなくては、子どもたちは変わりません。小中一貫町田っ子カリキュラムには、保護者や地域の理解と協力が不可欠です。

子どもたちの規範意識を高めるためには

家庭の力 地域の力が必要

2008年度から「小中一貫町田っ子カリキュラム」に規範教育を導入

いじめ問題への対応状況

全校調査

町田市教育委員会では、町田市立小・中学校のいじめの実態を明らかにするために確認することを通して、教師のいじめ等の問題に対する意識を高めること、いじめへの効果的な対応策を探ることを目的として、2006年11月に、全小・中学校にいじめ等の問題への対応状況について調査を行いました。「いじめ」のとりえ方については、文部省(当時)の「いじめの定義」にかかわらず担任が「指導を要する(要した)いじめ」として広くとらえ「いじめ等」として扱っています。4月から11月に発生しているいじめ等の問題の総数は、小学校40校と中学校20校を合わせて593件(小学校363件、中学校230件)で、11月時点で「解決すべく継続して取り組んでいるもの」も38件あるという結果でした。教育委員会では、「各学校がよく把握して対応した結果」の数であると受け止めています。以下に結果の概要を紹介いたします。

担任がこれから力を注いでいこうとしていること(複数回答)

子どもと日常的に話をすること	91.6%
いじめの事例などを具体的に話すこと	57.8%
道徳の授業を充実させること	54.0%
教師が強い指導姿勢で臨むこと	50.9%
保護者と日頃から連絡や相談をすること	72.7%
保護者会や面談等で担任の指導姿勢に理解・協力を得ること	58.7%
教師間で職員室などでこまめに情報交換をすること	88.2%
他の先生の授業後に子どもの様子を聞くこと	46.7%

担任教諭は、子どもへの日常会話、保護者との日常的な連絡・相談、職員室でのこまめな情報交換などに、これから一層取り組もうとしていることがわかります。保護者のみなさんの理解と協力があらためて必要です。どうぞ学校をご支援下さい。

いじめの問題は、全国的な問題としてクローズアップされています。町田市教育委員会では昨年のいじめの実態を確認するための調査を実施したところ、陰湿ないじめに対する教師の毅然とした姿勢の必要性や子どもたちが勇気をもって相談することの大切さ、そして、家庭と地域の理解と協力が不可欠であることがわかりました。また、規範教育の必要性が問われる中、現在「小中一貫町田っ子カリキュラム」を作成していますが、重要度の高い教育課題のひとつとしてこの規範教育をとり上げることにしております。これらの問題・課題の解決を図っていくためには、小・中学校、保護者、地域が連携して取り組むことが大切です。市民の皆さんのご意見をお寄せ下さい。

いじめの態様(複数回答)

ア 悪口やからかい	73.9%
イ 暴力	26.6%
ウ 無視や仲間はずれ	25.8%
エ 落書きや持ち物隠し	23.3%
オ メールでの嫌がらせ	3.7%
カ 金銭・物品の要求	2.2%
キ その他	3.4%

いじめ等は、陰湿に進行して、大人から見えにくい面もありますが、今回の調査では、直接的に相手を攻撃する行為の多さが目立つ結果となりました。このことについては、教師が毅然とした姿勢で指導することの必要性をあらためて確認できました。

いじめ等に初めて気づいた人

ア 担任	26.2%
イ 担任以外の教師	9.0%
ウ 本人からの訴え	27.0%
エ 周囲の子ども	17.7%
オ 保護者	19.3%
カ その他	0.8%

いじめ等の発見については、本人が誰かに訴えたり相談した割合は半数に満たないことがわかりました。勇気をもって相談することの大切さをあらためて子どもたちに伝えていく必要があります。

規範教育をはじめ4つの教育課題の効果的、効率的学習に向けて

「小中一貫町田っ子カリキュラム」を作成しています

① 規範教育

児童・生徒に社会のルールや常識、人間関係の大切さ、善悪判断などを教えていく新しい枠組みの内容を町田市独自の教育カリキュラムとして作成する。道徳授業地区公開講座などを通して地域社会全体の課題意識を高めるよう学校教育から情報発信していく。

③ 英語教育

小学校の英語活動と中学校の英語指導を効果的につなげるカリキュラムを作成する。国際感覚やコミュニケーション能力、文化理解などを深めることで、国際社会で活躍する人間を育てる。地域や保護者の教育ニーズに応え連携・協力を一層進める。

② キャリア教育

職場体験、社会体験等の取り組みを通して、児童・生徒に望ましい勤労観、職業観を育て、社会の一員としてたくましく生きる力を育てるためのカリキュラムを作成する。地域社会全体で子どもを育てる素地を形成し、地域とともに子どもの健全育成を推進する。

④ 食育

地産地消、食品の安全、礼儀作法、栄養や健康などを内容とし、学校・家庭・地域の連携を進めるカリキュラムを作成する。産・学・官連携などを視野に入れた教育活動を推進するとともに、「早寝・早起き、朝ご飯」などについて、地域社会全体に情報発信していく。

【カリキュラム作成、実施の目的】
保護者、地域に積極的な情報発信を行い、連携意識の高揚を図ります

今後取り組む必要度の高い教育課題について、町田市立全小・中学校で効果的、効率的に学習できるようにする。
・町田市としての学校教育の特色を打ち出し、市民や保護者の学校に対する関心を高める。
・学校教育から保護者や地域への情報発信を積極的に行い、理解と協力を得て、学校、保護者、地域の連携を一層進める。
・四つの領域を推進力として、小・中学校の接続・発展や連携への意識を高める。